▼折り目①

ええとこいっぱい あべの

保存版
（令和8年11月1日 現在）



マップ面に記載の都市景観資源について、紹介しています。

問合 区役所（市民協働）2階23番　TEL 6622-9787　FAX 6621-1412

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

①あべのルシアス

阿倍野地区第2種市街地再開発事業により完成し、隣接するきんえいアポロビルと複数階が連絡通路で繋がる16階建てで、シネマコンプレックスフロアまでの巨大な吹き抜けが印象的な大型複合商業ビルです。



②阿倍野歩道橋

上空から見ると阿倍野(abeno)の「a」とデザインされ、様々に高さを変える屋根や構造体による変化に富んだ空間と、道路にせり出し天王寺公園を望む展望スペースなどにより、歩く・話す・眺める・待ち合わせるなど、多様な活動の起点となる新しいタイプの歩道橋が誕生しました。



③あべのハルカス

「天王寺・あべの」ターミナルに直結する高さ300mを誇る超高層複合ビル。百貨店や美術館、ホテルなど多彩な店舗が出店しており、ランチやスイーツなど、絶品グルメも充実。最上層部には展望台があり、東西南北360度に足元から天井までのガラスを配した「天上回廊」からは広大な景色を一望できます。



④ Hoop（ふーぷ）

都会的なオープンスペースと昼と夜とで表情が変わる斬新な形状の建造物が特徴的な都市商業施設です。建物中心部の外壁はガラススクリーンで構成され、視認性の高い構造となっています。建物の内と外の境界線は存在せず、行き交う人々は何かに束縛されるということなく自由に空間を楽しむことができます。



⑤あべのキューズタウン

大阪府下最大級となる商業施設として、建物のボリュームを地上6階建てと低層に抑え、あべの筋に面した外壁面では、素材や色を変化させボリュームを分節し、街に対する圧迫感を軽減しています。また、4階をガラスで構成し、外部から店内の動きを見せることで、中の賑わいを街へと広げ、地域に溶け込むデザインになっています。



⑥路面電車の走るあべの筋

あべの筋は阿倍野区と住吉区を南北に縦断する道路で近鉄前交差点から約1.2㎞の区間は阪堺電気軌道上町線が設置されています。この区間は今でもチンチン電車が残っており、のどかさを楽しめる景観となっています。平成28年関西初となる取組として軌道敷に芝生の植栽を行い、新たなランドマークとなっています。



⑦あべのベルタ

阿倍野地区第2種市街地再開発事業により完成した地上17階、地下4階、延床面積約100,000㎡で、主な用途は住宅・店舗・事務所等で阿倍野市民学習センターといった公共施設も入り、市民に活用されています。



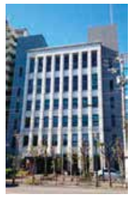
⑧阿倍野区民センター

コミュニティ活動の拠点となる多目的な集合施設で、収容人数が600人を超える大ホールや集会室だけでなく、スタジオや調理実習室、アトリエ兼工作室も完備されています。



⑨大阪府阿倍野警察署

あべの筋と阪神高速の交差点から南側に300mほど下がったところに位置する警察署の建物です。左右シンメトリーの外観となっています。



⑩聖天山

聖天山辺りは、帝塚山古墳ほどの規模の周濠をもった前方後円墳であったと推定されています。聖武天皇はこの古墳に立ち寄り、古くは聖武帝山と呼ばれていましたが、正圓寺に大聖歓喜天を祀ったことから聖天山と呼ばれるようになりました。



⑪松虫塚

昔、この辺りは見渡す限りの原野で、秋には虫の声が満ち、特に松虫(今の鈴虫)の澄んだ音色が美しく、名所として知られていました。古書「芦分船」によると、後鳥羽上皇が寵愛した白拍子の松虫、鈴虫姉妹が隠れ住んだといった伝説などが残されています。



⑫阪南町界隈の特徴的な長屋・住宅のある町並み

伝統的な住宅様式から和洋折衷あるいは大胆なものまで様々な創意工夫がされた長屋が現在でも多く残されています。
またこの界隈には、長屋以外の住宅でも特徴的なものが多く残されています。



⑬日本基督教団南大阪教会

大正15年2月7日に日本基督教団大阪教会の創立50周年記念事業の一つとして独立して宣教を開始しました。教会の南東方向には阪田寛夫「サッちゃん」詩碑があります。
1つ年上のクラスに「さちこ」という園児がおり、この「さちこ」さんに対する親しい思いを、後にこどもの詩という形に結晶させたものです。



▲折り目①

▼折り目②

⑭大阪府立工芸高等学校

世界に巻き起こったモダンデザインの中枢を担ったバウハウス運動の影響を色濃く受けて誕生した大阪府立工芸高等学校の本館は、大阪のバウハウスと呼ぶにふさわしい、モダンな建築デザインと感性を誇っています。



⑮文の里商店街

商業施設の競争が激化している地区にありながらも、地域の生活に密着した商店街として、古き良き商店街の雰囲気を守りつつ、これまでも「よいち」やハロウィンのイベントなどを通じて、商店街の活性化に積極的に取組まれています。



⑯寺西家阿倍野長屋・寺西家住宅

寺西家阿倍野長屋は、昭和7年に建築され、平成15年に長屋では全国初となる国の登録文化財に登録されています。寺西家住宅は、大正15年に建築され、当時の戸建て住宅の典型です。生花展や手作り作品展などの催会場としても利用されています。



⑰桃ヶ池公園

桃ヶ池の歴史は古く、周辺は弥生時代から中世にかけての「桃ヶ池遺跡」として大阪市の指定を受けています。古くは猫間川につながる池でその形から「股ヶ池」と記され、江戸時代の書物には聖徳太子による大蛇退治の伝説が紹介されており、池の中には「へび島」と呼ばれる自然が残された島があります。



⑱桃ヶ池長屋

昭和初期としてはめずらしい通り庭のあるちょっと贅沢なつくりをしています。長屋前の道は、田辺から王子神社をつなぐ街道筋として栄え、商売をする人が多く住んでいました。今は現在の暮らしに合わせて、壁の塗り直しや一部床のはり直しを行っていますが、柱や梁などの骨組みは当時のまま残っています。



⑲晴明丘中央公園

阪堺電軌上町線の線路沿いにある公園で、北畠駅の南側に位置しています。面積が12,000㎡と広々とした公園で、樹木が生い茂り人々の憩いの場となっています。



⑳姫松停留場

路面電車という性格上、プラットホーム上に上屋が設置されるだけの簡易なものが多い中、姫松駅は独立型のものとして整備されており、木造、平屋建て、鉄板葺きの小ぶりなデザインの駅舎です。正面に開口部を設け内部は1室の空間です。



㉑北畠住宅

大正期の分譲市営住宅です。大正時代に「桐山」と呼ばれる森だったこの地が、周辺に先立ち区画整理されたことにより、周辺とは異なる区画形質の街区に位置しています。また、街区内の道路も一部未舗装となっており、この地域の市街化履歴を語るうえでは重要な資源です。



㉒奥田邸のクスノキ

寛文3（1663）年、猿山新田を開墾した奥田市郎兵衛の子孫が住まれている非公開邸内に大阪市指定の保存樹のクスノキがあります。新田の開墾時に防風と美観のために森林を造成し、「猿山の森」と呼ばれていました。このクスノキはその森の名残です。



㉓阿倍野長屋

大阪・阿倍野（昭和町）の大通りから一歩路地へ進むと、なんだか少し懐かしい下町の姿があり、その一角に「阿倍野長屋」は所在します。中には、洋館があったり、中庭を覗める縁側があったり、一度腰を下ろすとほんわり気持ちが和む、おばあちゃんの家のような場所です。平日は時間単位、休日は1日単位でレンタル可能で、撮影、展示会、マーケットイベント、演劇公演等に利用されています。



㉔安倍晴明神社

平安時代の天文博士安倍晴明が祭神として祀られており、この地は晴明が生まれた晴明屋敷があったと言われています。晴明は孝元天皇の皇子 大彦命の子孫で陰陽道の祖として広く知られており、晴明の死を惜しんだ花山上皇が生誕の地に晴明を祀るように命じ、この地に安倍晴明神社が創建されたと言われています。



㉕阿倍王子神社

大阪府下に唯一現存する熊野権現の王子社である阿倍王子神社は熊野街道沿いにあり、四天王寺と住吉大社の中間に位置することから、熊野王子社「阿倍の王子」となりました。阿倍王子神社の境内では保存樹に指定されている樹齢五・六百年のクスノキの巨木が枝を広げています。



㉖熊野街道

大川の船着場、天満の八軒家浜から続く熊野街道は、あべの筋を松虫の交差点へ南下し、あべの筋の1本西側の細い道であり、落ち着いた静かな街並みに社寺や歴史的な民家などが点在し、人々が行き交った祈りの道「熊野街道」の面影をしのぶことができます。



㉗源正寺楼門

大阪大空襲によって本尊などほとんどが消失しましたが、楼門・経塚などが戦災を免れました。知恩院末寺で、初重袴腰を塗込める竜宮造の楼門で、上層は出組、二軒繁垂木、入母屋造、本瓦葺です。蟇股や肘木の形式・絵様に近代らしい意匠が充溢するとともに、旧熊野街道に面し竜宮門として親しまれています。



㉘阿倍野七坂

阿部野神社の社から名付けられた「やしろ坂」、正面参道に続く坂道の「みや坂」といった神社に由来している坂をはじめ、桜並木の美しかった「さくら坂」、他にも「みどり坂」や「みなみ坂」、相生郵便局の角から北に上る細くて急な坂道は「相親坂」、その東側にあり南へ上がる坂は「相生阪」と呼ばれています。



㉙ドムール北畠

昭和57年に完成した風致地区の由緒ある古い住宅地で、その敷地の高低差と在来の大樹を生かし、歩車共用の道路沿いに個性的な住戸を配置しています。



㉚阿部野神社

北畠親房と北畠顕家の両公が祀られています。両公の生前の遺徳から知恵と勇気と学問の神として地域の人々から深く信仰されています。全国にある建武の中興に尽力された天皇、皇子、そして多く忠臣義士をお祀りしている「建武中興十五社」の一つにも数えられています。



㉛岸の五本松

府立住吉高校正門の西筋向い、グラウンドに沿って残されています。古くはこの界隈にも松林が続き、松の木が多く茂っていましたが、わずか5本の松だけが道路沿いに残されました 。現在は1本が枯れて4本になっていますが、地域の人々は、岸の姫松との由緒を大切に思い「岸の五本松」と呼んで長く親しまれています。



▲折り目②